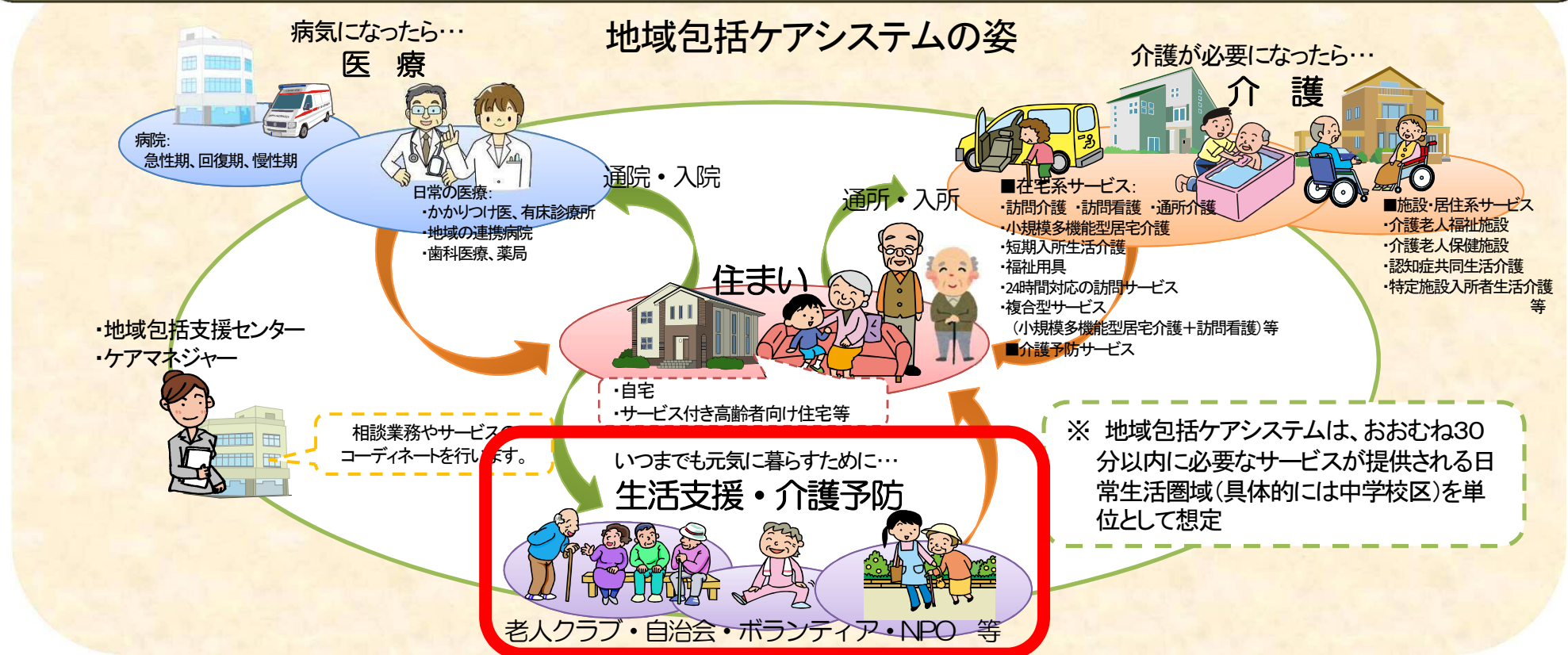


「協議体及び生活支援コーディネーターについて」

生駒市地域包括ケア推進課

地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**



協議体の目的・役割等について

設置目的

生活支援・介護予防サービスの体制整備に向けて、多様なサービス提供主体の参画が求められることから、**市町村が主体**となって、「**定期的な情報の共有・連携強化の場**」として**設置する**ことにより、多様な主体間の情報共有及び連携・協働による資源開発等を推進する。

役割

- コーディネーターの組織的な補完
- 地域ニーズの把握、情報の見える化の推進（アンケート調査やマッピング等の実施）
- 企画、立案、方針策定を行う場
- 地域づくりにおける意識の統一を図る場
- 情報交換の場、働きかけの場

設置主体

設置主体は市町村であり、第1層のコーディネーターが協力して地域の関係者のネットワーク化を図り、設置する。

※地域の実情に応じた様々なネットワーク化の手法が考えられるため、既に類似の目的を持ったネットワーク会議等が開催されている場合は、その枠組みを活用することも可能。

※特定の事業者の活動の枠組みを超えた協議が行われることが重要。

構成団体等

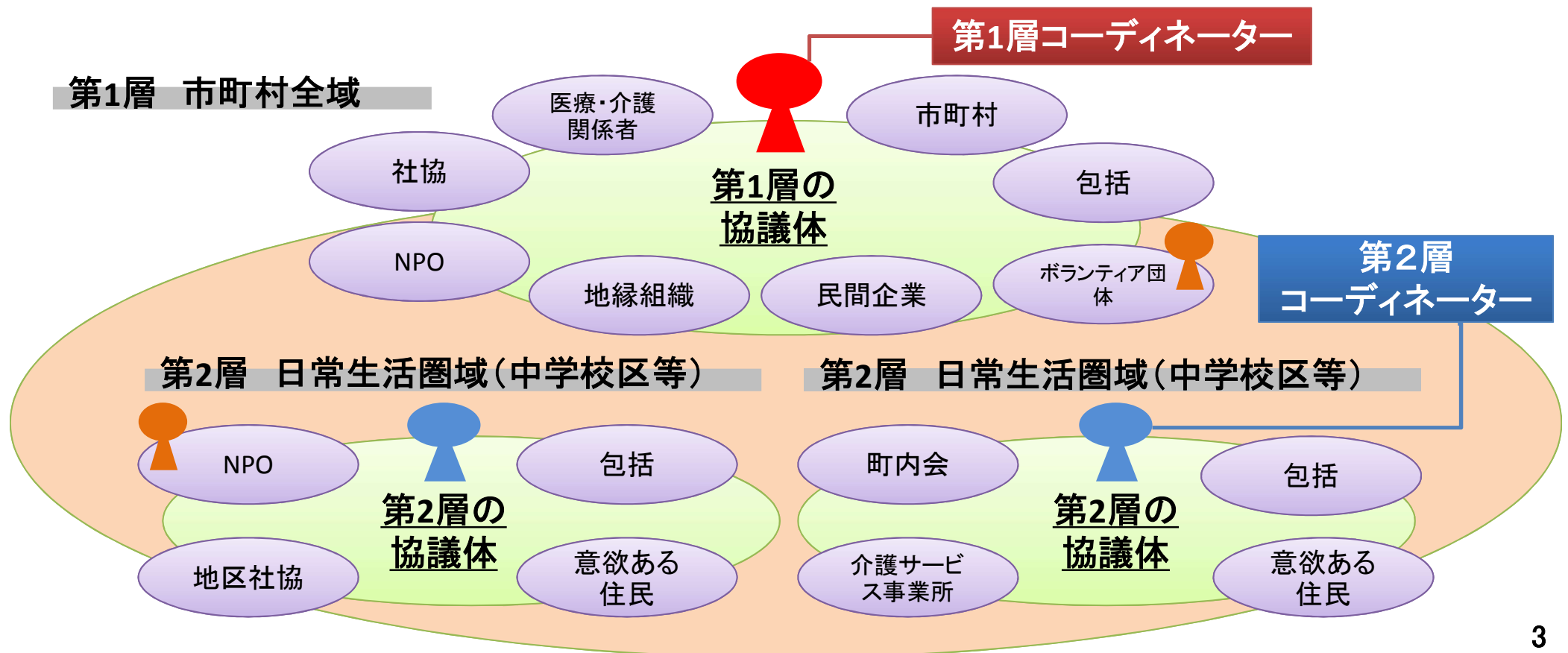
- 行政機関（市町村、地域包括支援センター等）
- コーディネーター
- 地域の関係者（NPO、社会福祉法人、社会福祉協議会、地縁組織、協同組合、民間企業、ボランティア団体、介護サービス事業者、シルバー人材センター等）

※この他にも地域の実情に応じて適宜参画者を募ることが望ましい。

コーディネーター・協議体の配置・構成のイメージ

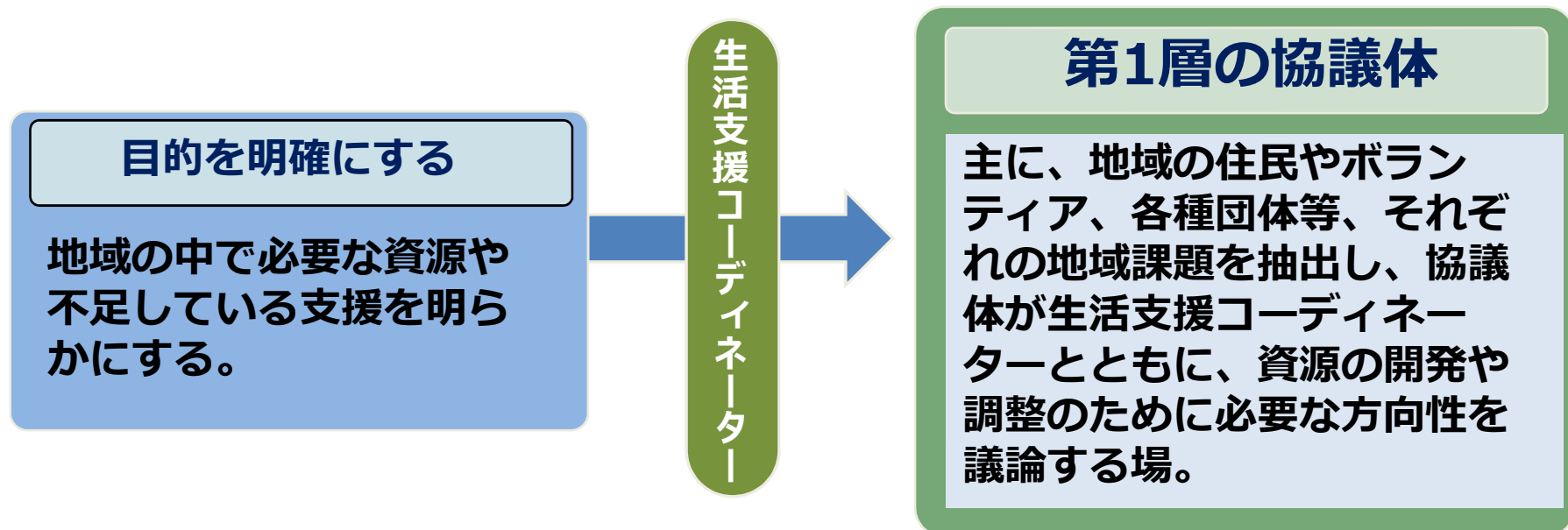
- 協議体は必ずしも当初から全ての構成メンバーを揃える必要はなく、まずは最低限必要なメンバーで協議体を立ち上げ、徐々にメンバーを増やす方法を選択！
- 住民主体の活動を広める観点から、特に第2層の協議体には、自治会、老人クラブ連合会、市民自治協議会など、地域で活動する地縁組織や意欲ある住民が構成メンバーとして加わることが望ましいと言われている。

平成29年6月5日（月）午前9時半～12時 市役所大会議室
【生駒市助け合い・支え合いを勧めるための意見交換会（ワークショップ）の開催】
◆地域力の向上に向けて 近畿大学 久 隆浩教授 ◆グループワーク



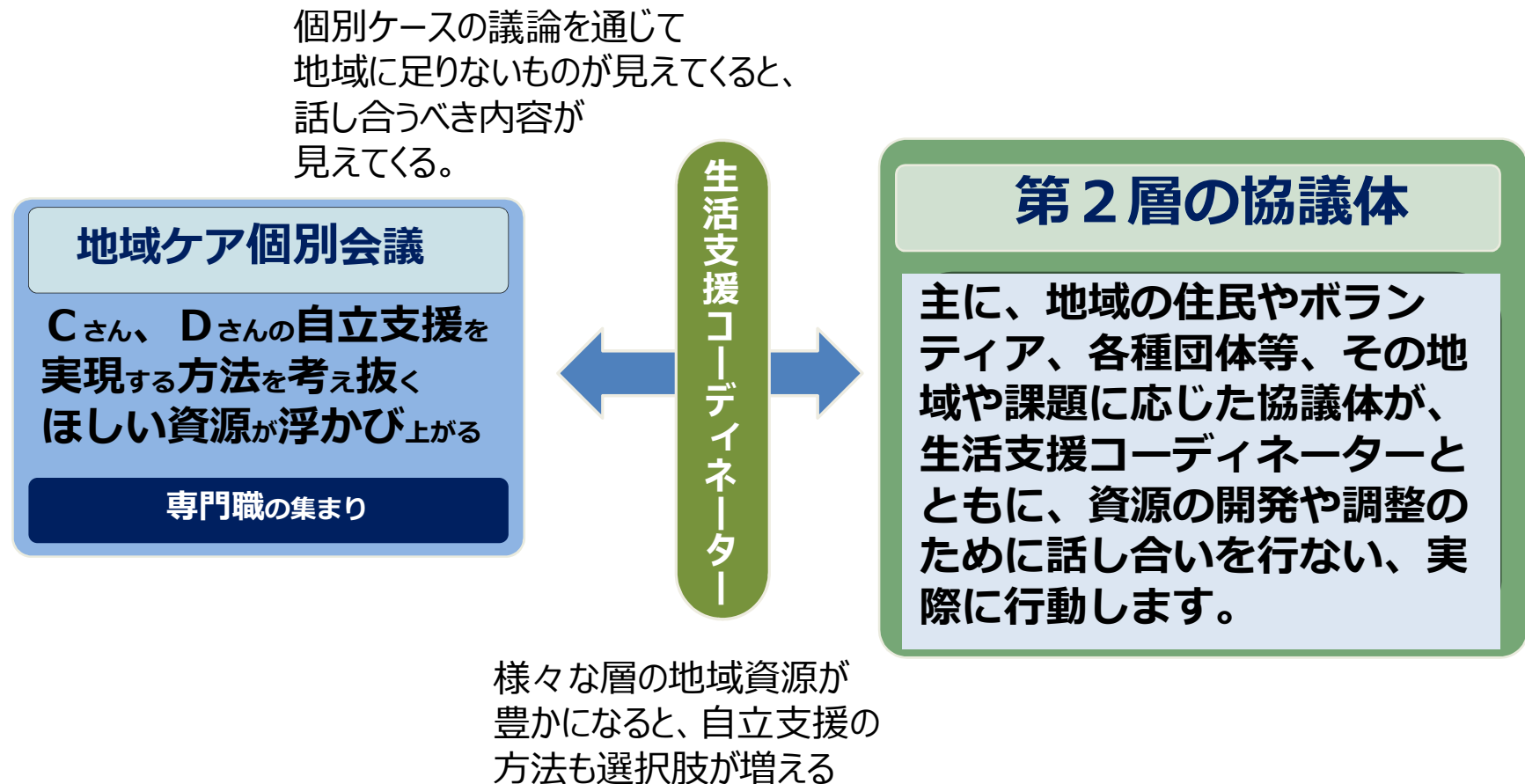
【基本の考え方】 第1層の協議体の役割

- ◆協議体は、地域づくりを推進していくためのエンジン。
- ◆地域で不足している支援や地域資源を、地域の中から探したり、新たに
つくったりする場所。
- ◆原則としては、**地域に必要なものが何か？**について、協議体で具体的
な議論を進め、地域づくりの方向性を協議する場として有効。



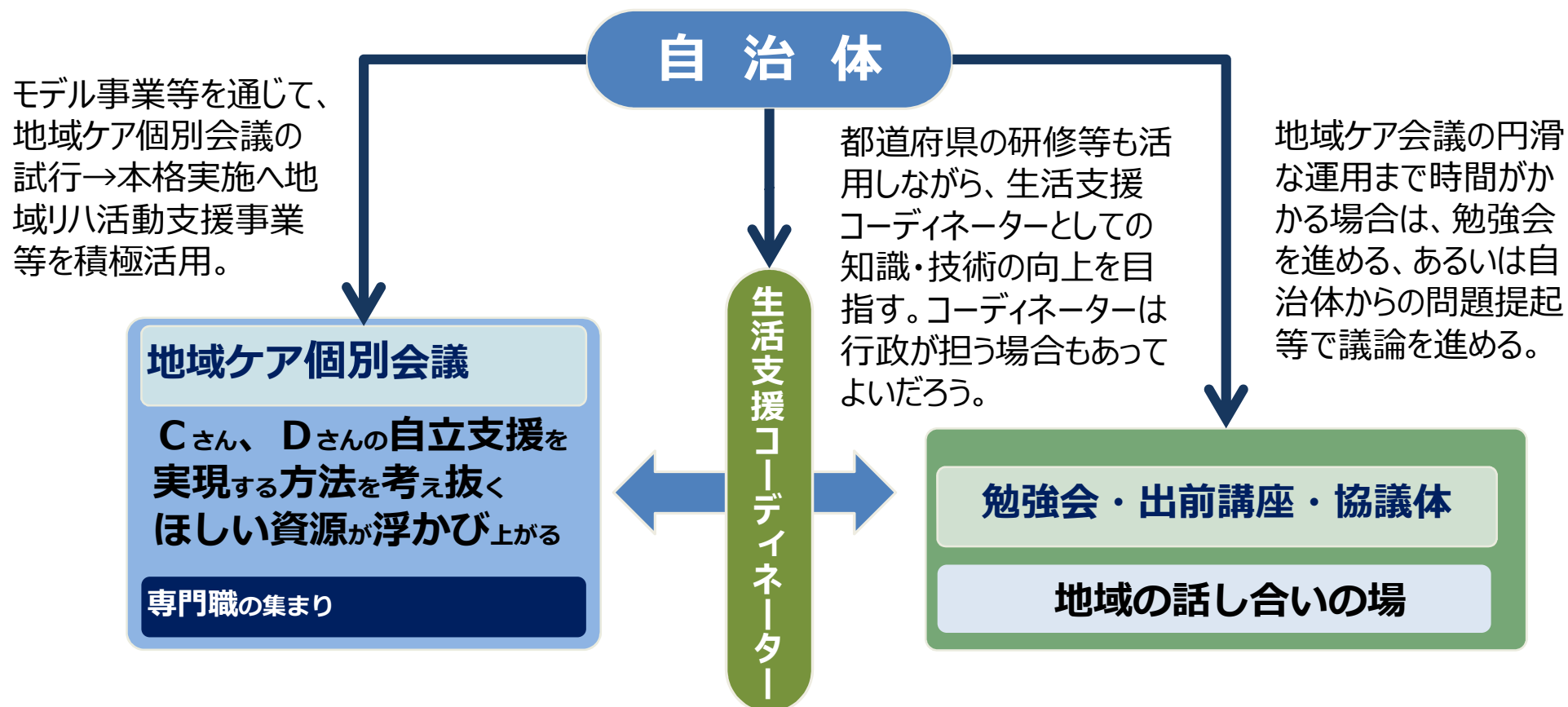
【理想論】 「地域ケア会議」と 第2層の協議体の関係性

- ◆ 自立支援に必要な不足している地域資源を特定する上で、「地域ケア会議」は、大変重要な役割を果たす。地域ケア会議の中で自立支援を実現するために必要な地域資源を、介護保険に限定せず、広い視点で探していくと、地域に不足している資源がみえる。
- ◆ 協議体での議論の目的を明確化する上で、地域ケア会議は欠かせないものである。



【現実論①】 「地域ケア会議」と 第2層の協議体との関係性

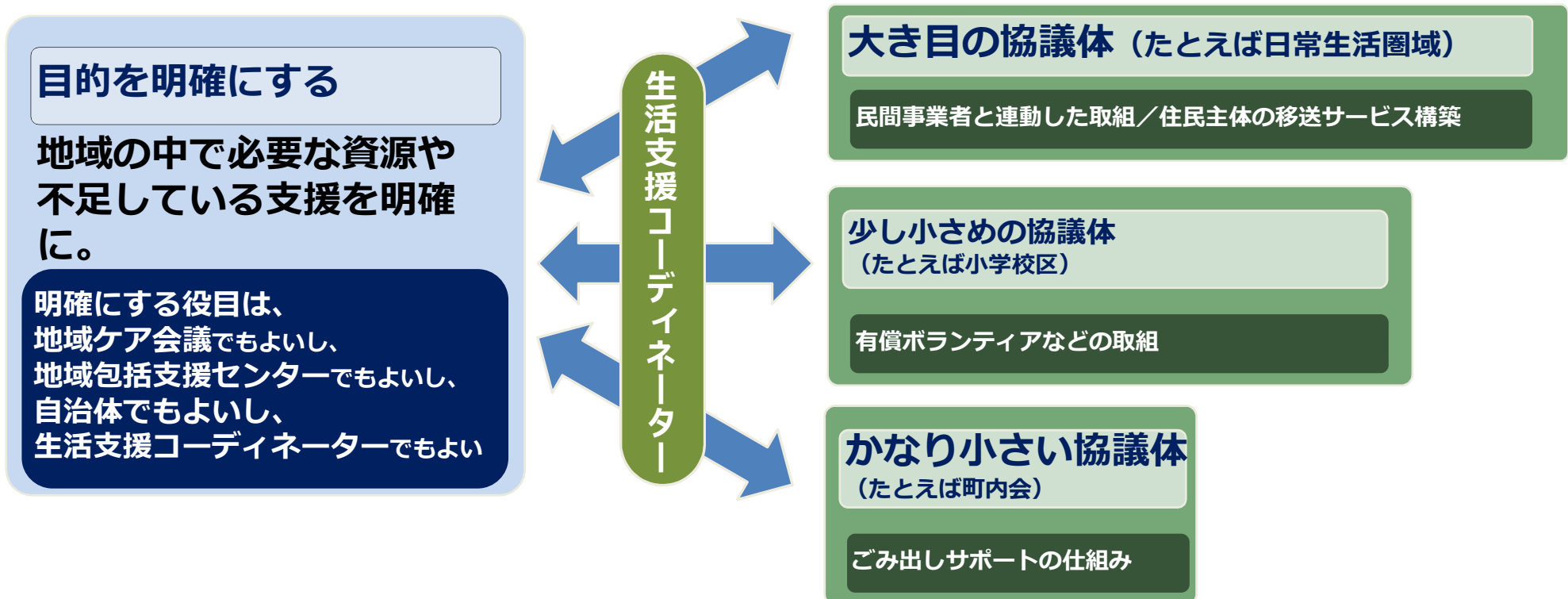
- ◆生活支援コーディネーターも配置したてであり、現実的には、自治体を中心となって、地域ケア会議、生活支援コーディネーター、第2層の協議体の立ち上げに対して、積極的に関わる必要性がある。



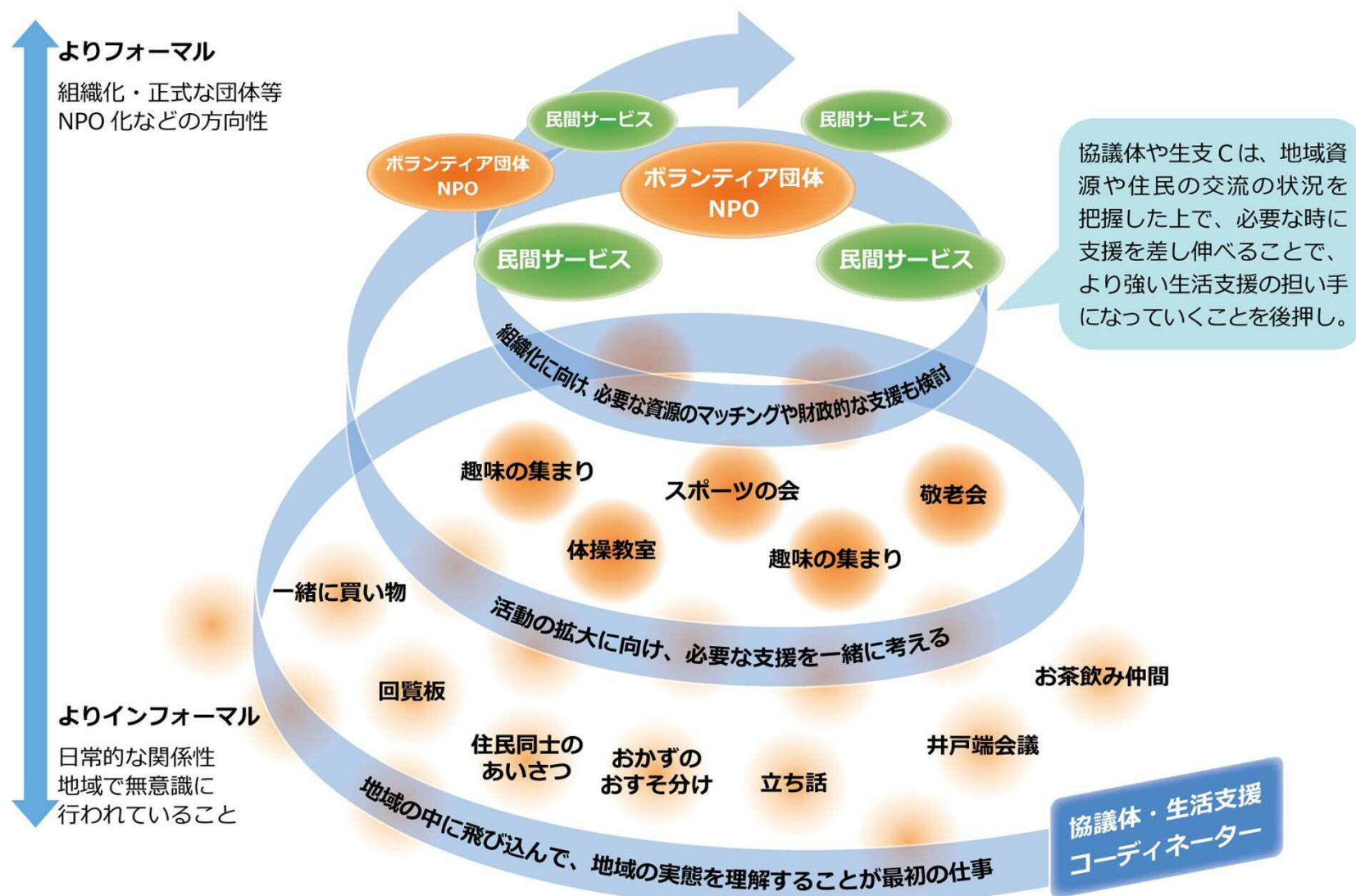
【現実論②】 目的にあわせ

第2層の協議体は柔軟に・・・

- ◆ 第2層の協議体で議論すべき目的や狙い（地域に作りたいものがあるなら、具体的にどのようなものなのか）をある程度「あたり」をつけておくことが必要。
- ◆ 次に、目的に応じた話し合いの場を考えることが大切。「ごみ出しを助け合おう」というなら、町内会単位で話し合う必要があるし、すでに活動している有償ボランティア団体があるのなら、既存団体のメンバーに加え、出前講座等を通じて関心表明してきた住民を会議に加えて議論するといったこともある。
- ◆ 大切なのは、目的にあった話し合いの場を持つことであり、固定的な会議をもつことではない。



第2層の協議体と生活支援コーディネータのイメージ



資料：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「新しい総合事業における移行戦略のポイント解説（概要版）」
（平成27年度老人保健事業推進費等補助金）

【参考】多様な資源とサービス類型の関係

C
類型

従前
相当

A
類型

B
類型

“サービス”
専門職等

“助け合い”
なじみの関係

リハ職による
専門的な訪問
サービス



訪問介護

雇用労働者
による
訪問サービス



有償ボラによる
生活支援



ボランティア
による生活支援



ご近所のちょっと
した家事援助



ご近所の見守り

リハ職による
専門的な
通所サービス



通所介護

雇用労働者
による
通所サービス



有償ボラによる
ミニデイ



体操教室



サークル、サロン



お茶のみ仲間

出所: 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 斎木由利講演資料

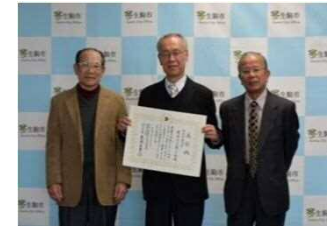
生活支援体制整備 地域力の向上 (第2層の協議体のイメージ)



【あすか野の土曜市】
高齢化率が高い自治会
が自らの手で土曜市を
開催！



【鹿ノ台いきいき街づくり会】
サロン活動やいきいき百歳体操、買い物支援など
を実施。平成28年度奈良県介護大賞受賞！



中地区健康まちづくり協議会

2年前より勉強会を立ち上げ、先進地視察を行い、自分たちの地域に必要なことを考え、形にしていこうと始まったもの。今年は、新潟県上越市にバスを借り上げ視察を計画。バス内で参加者の交流を図り、仲間づくりの結束を狙っている。他にも市民自治協議会の立ち上げもあり、互助の仕組みづくりがふつふつとわきあがってきている。



- 朝、先ず自分にあいさつ（自分への感謝）
- そして、家族へ（家族への感謝・きずな）
- そして、隣近所・地域へ（地域への連携・連帯）

他の地域でも様々な取組が始まっています！



まちづくり協議会の発足
H28. 7.2